

SHIRO

PAPER



4 582757 632445

MAISON SHIRO
EDITION

April 2024

2

STAY

SHIROの暮らしがここにある
森の都合で建てた家

10

STORIES

何をするかよりも誰とするか——
はじまりの物語





森、人、暮らし ここで寝て起きて SHIROが描く未来に出会う

SHIROが建てた一軒の家と庭。
森の可能性を広げるための起点であり、
ラボラトリーであり、一棟貸しの宿でもあります。

ここにあるものは、私たちが描く未来そのもの。
MAISON SHIROに泊まり、未来の要素を見つけて、
それぞれの日常に変化が生まれることを願っています。

Photographs: KEITA SAWA
Text: SHINTARO KUZUHARA



SHIROの暮らしを体感できる 一棟貸しの宿泊施設

2024年4月、SHIROは北海道長沼町にMAISON SHIROをオープンしました。キッチンとプライベートサウナを備え、4名様がゆったりと宿泊できる一棟貸しの宿泊施設です。地平線に沈む夕陽、野菜やベリーが育つ庭。移りゆく四季を眺めながらくつろぐバスタイム。滞在中、存分にお楽しみいただける SHIRO の製品や特別なアメニティ。産地に足を運んで素材と出会い、自然素材の恵みを最大限に引き出してものづくりを続けてきた SHIRO の暮らしを体感していただけます。

MAISON SHIROのリビングには、旧砂川本店の壁に掛けられていた「Simply Simple」の額が飾られています。これはSHIROの前身である LAUREL (ローレル) を設立する時にブランドプロデューサーの今井浩恵が書いた、ものづくりに対する姿勢です。自然の素材をシンプルに使い、素材の良さを最大限に引き出すという私たちの想いをまとめたもの。

自然の素材をシンプルに Simply Simple

- ・自分たちが毎日使いたいものを作ること
- ・倉庫にありし素材をシンプルに使うこと
- ・北海道・日本の素材を使うこと
- ・自ら素材を探ること
- ・その素材の良さを最大限に引き出すこと
- ・自ら生産者に出会うこと
- ・その生産者の想いをまっすぐに伝えること
- ・日本・世界にその素材を伝えること
- ・日本で商品づくりをすること
- ・世の中を幸せにすること

SHIROはブランドをスタートさせてから今日まで「自分たちが毎日使いたいもの」をつくり続けています。製品をつくる時にも、店舗を設計する時にも、そして、家をつくる時にも大切にしていることは同じです。MAISON SHIROは、「Simply Simple」の考え方で建てた、私たちが毎日過ごしたい家です。

リビングルームやバスルームにSHIROのスキンケアやフレグランス製品をご用意しています。シャンプー、コンディショナーやボディソープ、ハンドソープはSHIRO PERFUMEの香りから「MAISON SHIRO」のためにつくりました。



森の都合に合わせて建てた家

SHIROの製品が誕生するきっかけは、いつも生産者の方々と素材との出会いです。畑や海を訪れて、農家や漁師と出会って彼らの想いを聞くように、MAISON SHIROを建てるにあたり、木こりの案内で森を歩き、間伐される木の中から柱や壁に使う木を選びました。図面や模型だけを見ながら建築を進めていくことに違和感を覚えたのです。自ら素材と出会い、生産者に会い、木の良さを最大限に引き出したい。宿泊される方々はもちろんのこと、森で働く人や、家を建てる人も幸せにしたい。

MAISON SHIROは、人間ではなく森の都合に合わせて建てました。地球の未来を真剣に考えている木こりから木材を買い、余すことなく使い切り、廃棄物を減らすことに挑戦しています。規格外の野菜が不格好でも美味しく食べられるように、木材に節や割れがあっても、石材の大きさや色が異なっても立派に機能します。割れ目のある柱や、節のある板材も、唯一無二の個性があり、それこそが美しさだと思うのです。



やわらかな朝の光が差し込む パウダールームで身支度を整える

玄関をくぐり、ドアを開けると最初に目に留まるように設計したパウダールーム。シンプルで凛とした佇まい、上から差し込む光、やさしい香り。新しい1日のスタートを、時間の許す限りゆっくりお過ごしください。



製品の原料となる素材の 蒸留施設「シロラボラトリー」

宿泊棟の隣には、近隣で採れた自然素材を蒸留する「シロラボラトリー」があります。フレッシュな枝葉や、森に自生する笹やヨモギを馬追山の天然の湧水を用いて蒸留し、製品に使用します。サウナのロウリュはここで生まれた蒸留水を使用するなど、宿泊される方には、SHIROのものづくりの気配を感じていただけます。

工場で製造の一環として蒸留するのではなく、暮らしの一部として蒸留した時に、見えてくるものが変わる気がしています。開発の責任者である中川が、工場がある砂川からわざわざここまでくる道中に何を見て、何を感じるのか。植生が豊かなこのMAISON SHIROで、食べる、寝るなどの生活を感じながらものづくりをすることで、お客様に近づいていくと思っています。工場で蒸留しても、サウナで使ってみようとか、料理に使ってみようとはならないですね。

——今井浩恵



SHIROを感じる棚

ブランドができるまで、今、そしてこれから

リビングルームの棚には、製品と一緒にSHIROを感じるアイテムが並びます。リブランディング前、小文字時代のshiroのロゴが描かれたネオンサインは、以前出店していた福岡PARCO店のショーウィンドウで飾られていたもののひとつ。隣には今井がブランドをつくるために読んだり影響を受けた本が並び、小さな木板や丸太は実際にMAISON SHIROで使われている木のサンプルたち。スキはSHIRO CAFEを監修する高尾僚将シェフと、森を訪れた時に採取しました。中央にあるのは、旧砂川本店の壁に掛けられていた、ブランドの信念「Simply Simple」。

MAISON SHIROは、創業以来の考えや想いを生活する中で感じてもらえる“家”という形で表現しました。インテリアとして置かれているのは、今井

がSHIROの未来を探す旅の途中で見つけた、さまざまな小物や本、絵画など。旅はまだ続き、その記録として棚などのラインナップも常になり続けるのです。

季節が移り変わることで彩られていく庭では、春になると一斉に草花が芽を出し花が咲きます。そして夏には、ブルーベリーやハスカップ、ブルーベリーなどが実をつけます。採れたての野菜を料理して、味わっていただくことも。秋になると紅葉を、冬には一面に広がる雪景色を大きなガラス窓からご覧いただけます。自然とつながり、気分を落ち着かせることで、感覚を研ぎ澄ませる。そんな時間をお過ごしください。



セミダブルベッド4台 2フロアに設けた寝室

2Fの寝室からは長沼の広い平地と遠くの山々を見渡すことができます。空の色の変化をお楽しみください。1Fの寝室はパウダールームやお風呂とつながっていて、SHIROの香りを感じながらゆっくりと眠れます。



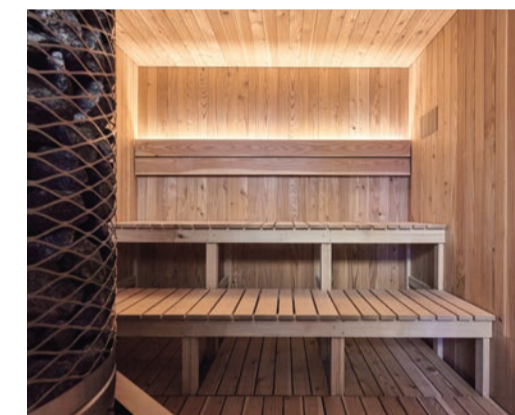
季節を楽しみながら リラックスするひととき

バスルームの窓の向こうに広がる絵画のような景色は、季節や時間でさまざまに変化します。西の空に沈む夕陽、晴れた夜には星空を眺めながら、バスソルトで旅の疲れを癒すバスタイムを。



コンロ、調理器具、キッチン家電 カトラリーや調味料まで

キッチンには自炊に困ることがないように、さまざまな設備を揃えました。ワインやSHIRO LIFEの製品なども置いてあります。料理をしながら、ゆっくりと飲みながら、未来について語り合しましょう。



プライベートサウナで感じる 北海道の自然の恵み

サウナには、北海道愛別町の白樺やカラマツの加工で出た端材と札幌軟石を使用。本場フィンランドのIKI STOVÉを設置し「シロラボトリー」で蒸留した蒸留水をロウリュにお使いいただけます。



自分の手で薪をくべる 森の恵みから暖を取る

着火剤などには頼らず、森の資源を活用する薪ストーブ。松ぼっくりと枝に着火し、その火をゆっくりと薪に移す。火を眺め、暖かさを感じながら、ソファでじっくりと読書や考え事にふけてください。



四季を映す庭で 自然との調和を楽しむ

季節によってブルーベリーやハスカップ、ブルーベリーが実り、アスパラガスなどの野菜も育ちます。自らの手で収穫して、そのまま召し上がったたり、お料理したりしながら、旬の美味しさを味わえます。

MAISON SHIROは家一棟をまるごと貸し切っていたくバケーションハウスです。
最大大人4名様（お子様もご宿泊いただけます）までのご宿泊でゆったりとお使いいただけます。

PLAN

素泊まり料金プラン
・大人2名様 130,000円（税込）～
・大人3名様 150,000円（税込）～
・大人4名様 170,000円（税込）～

※最大大人4名様ご宿泊いただけます。
※3歳以上のお子様は大人料金となります（3歳未満の乳幼児は無料）。
※料金は曜日によって変動します。
※お支払いは予約時にクレジットカードでお支払いください。

MEAL

・朝食セット1名様につき、プラス1,500円
・オリジナルコーヒーとハーブティーが付いていますので、ご自由にお楽しみいただけます。
・夕食のプランはございませんが、キッチンには基本的な調理器具と調味料がございますので、料理をお楽しみいただけます。また、近郊の新鮮野菜などを使ったおすすめのレストランやオーダブルがテイクアウトできるレストランをご案内いたします。

EQUIPMENT

・フリー Wi-Fi 完備
・セミダブルベッド4台
・駐車場（無料）

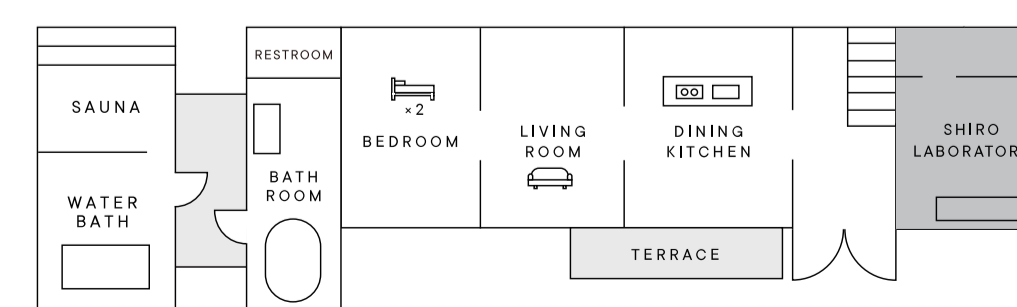
CHECK IN / CHECK OUT

チェックイン 15:00-18:00
チェックアウト 8:00-11:00

RESERVATION

予約、詳細はウェブサイトをご確認ください。
<https://maisonshiro.jp>

1F







MAISON SHIRO はじまりの物語

何をするかよりも、誰とするか——。
地球や社会について考え、活動する誰かに出会った時に
「一緒に何をしよう、何をしたら社会がより良くなるだろう？」
と考えて実践してきたSHIRO。MAISON SHIROも、
人と人との出会いからはじまりました。

Photographs: KEITA SAWA, KENGO SONE (P13)
Text: SHINTARO KUZUHARA

きっかけとなった、コロナ禍の出会い

まず大きなきっかけになったのは武隈洋輔さん。MAISON SHIROの隣で、一棟貸し切りのパケーションハウス「MAOIQ」を2017年から運営し、何もしない贅沢を味わえる宿として、馬追山などがある自然豊かな長沼町でたくさんのお客様を迎え入れています。コロナ禍にワーケーション先をネットで探していた今井は、この宿と出会うのです。

もともとSHIROの製品が好きで、プライベートでもMAOIQでも使っていたんです。香りはもちろん、北海道生まれのブランドで、がごめ昆布や酒かすなど北海道の自然素材を使っていることに惹かれました。

——武隈洋輔

大切なお客様を迎え入れるアメニティにSHIROを選んできている。オーナーである武隈さんと何か一緒にやってみたいという直感から、今井は2021年10月にMAOIQに宿泊します。そしてどんな人でも惹きつけてしまう武隈さんの人柄に惚れ込み、SHIROとして「一棟貸しの宿」を持つことを考えはじめました。武隈さんがいて、MAOIQがあったことが、自然とSHIROを長沼町に引き寄せたのです。

そんな時、友人の勧めで、今井は淡路島にある宿を訪れました。「五感を取り戻す滞在」をテーマにした1日1組限定の貸別荘「ISLAND LIVING」です。潮風が吹き抜ける気持ちの良い物件をフルリノベーション。間仕切りのない開放的な間取りや、光や風を五感で感じるように考えられた建物でした。その空間に散りばめられたメッセージに今井は強く感動したと言います。

古い建物を活かしつつ、より美しく、より居心地良く再構築されていました。淡路島の自然環境を感じる、とても素敵な空間だったのです。そして、置かれている家具や本から、未来をより良くしようという想いを感じ取りました。直感的に、ここを設計した人と一緒にSHIROの空間をつくりたいと感じて、宿のスタッフさんに誰が設計したのか尋ねたら、「このオーナーが設計したのだ」と。しかも「捨てないお店づくりを考えている人」と聞き、すぐに連絡を取りました。

——今井浩恵



武隈洋輔 Yosuke Takekuma

長沼・馬追の自然や食に魅了されて札幌から移住。たくさんの人に「ここで暮らしたい」と感じてもらいたいという思いから、一棟貸し切りのパケーションハウス「MAOIQ」を2017年にオープン。2019年には2棟目となる「MAOIQ komfort」もオープン。長沼町観光協会副会長も務める。



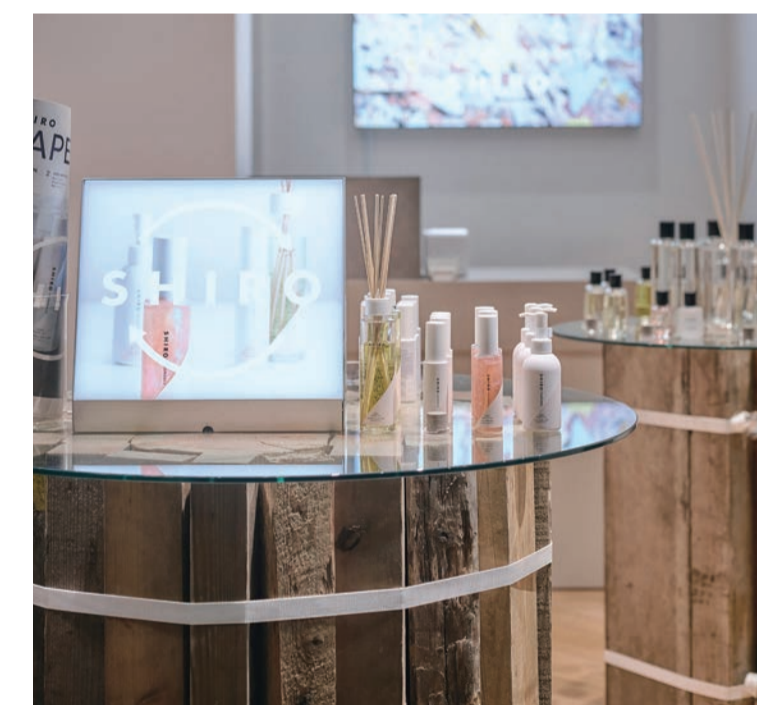
小倉寛之 Hiroyuki Ogura

京都造形芸術大学（現/京都芸術大学）芸術学部環境デザイン学科卒。「cafe co」勤務ののち、2011年インテリアデザイン事務所「DRAWERS」を設立。循環し、未来につながる創作活動に取り組む。2020年より、クライアントワーク以外の活動をスタート。

オーナーの小倉寛之さんはインテリアデザイン事務所「DRAWERS」の代表。大阪を拠点に日本各地の商業施設のデザインを手掛けています。しかし、インテリアデザイン業界の慣習に疑問を持っていたと言います。

建築や空間のデザインにも流行があり、商業施設や店舗デザインには“新しさ”が求められます。まだ使える壁や棚や陳列台が、新鮮さを出すために新しいものに置き換えられ、それまで使っていたものは捨てられる。トレンドが移り変わるスピードはとても速く、つくっては壊し、捨てて、またつくって、捨てての繰り返し。コロナ禍で仕事が減ったことをきっかけに、自分が本当につくりたい空間についてじっくり考え、ISLAND LIVINGをはじめました。

——小倉寛之



渋谷PARCO POP UP STOREでは、木造建築の解体材をディスプレイに再利用し、什器などを持ち込み廃棄物を出さないお店づくりを叶えた。

コロナ禍は今井にとっても転換期でした。SHIROの製品をより多くのお客様に届けるために、世界に名を馳せるラグジュアリーブランドと肩を並べようと必死で走っていた時に、世界中の動きがストップ。忙しさのあまり多くのことを犠牲にしていたことに気が付き、「SHIROが目指すべき未来」を考え直していた時期だったのです。同じ時期に同じように未来を考えていた小倉さんに共感し、ルクア イーレ店やルミネ池袋店のリニューアル、渋谷PARCOでのポップアップストアなどの設計を依頼しました。そして、小倉さんのデザインにさらに惹かれ、もっといろいろな空間と一緒につくりたいと思うようになっていきます。

3人目のキーパーソンである高山泉さんはその頃、北海道砂川市で「みんなの工場」のプロジェクトマネージャーとして、計画全体をまとめていました。今井が森に関心を強めていたのもちょうどその頃。工場の現場確認の間合を見ては、北海道の森を訪れていました。そこで働く、持続可能な森づくりを実践している木こりの皆さんとの出会いによって、みんなの工場のデザインが急遽変更され、外壁材として北海道のカラマツの間伐材が有効活用されることになったのです。

地域の皆さんとSHIROが実現したいことのすり合わせ、突然やってくる計画の変更、迫りくる工期。さまざまな無理難題を調整し、プロジェクトを進める高山さんに、今井は絶大な信頼を寄せていくことになります。同時に、世界的な建築や都市計画のコンサルティング企業のスタッフとして工場建設に関わっていた高山さんの心境にも変化がありました。

未来を見据えて森林を管理する木こりの皆さんや、廃棄物を出さないように空間をデザインする小倉さん。SHIROに関わるさまざまな人たちが、自分自身が本当に良いと思える仕事に打ち込む姿を見ながら「自分もそうありたい」と考えるようになりました。

——高山泉



高山泉 Izumi Takayama

大阪府生まれ。大学院卒業後、建築や内装の設計事務所で意匠設計やディレクションを担当。2007年アアップ入社。建設関連のプロジェクトマネジメントに従事。2024年独立。

4人からはじまり、みんなでつくる

今井がこの3人と一緒にやりたいこと。それが「一軒の家をつくり、森の都合に合わせた暮らしを体感してもらおう」ことでした。森の都合に合わせて建てた家に、自然の都合に合わせてつくったSHIROの製品を置く。隣には蒸留施設を設け、暮らしに近いところでのづくりをする。小倉さんが全体をデザインし、高山さんがチームをひとつにまとめ、武隈さんがお客様を迎え入れてMAISON SHIROの想いを伝えていく。そんな空間をつくることを決めたのは、2022年でした。

しかし既存の建築の進め方・宿泊施設のづくり方では「森の都合に合わせて」ことができません。なぜなら、森ではなくビジネスが中心にあり、できるだけ安く・速く・効率的に進めることを目指しているからです。例えば、日本にはたくさんの森があるのに、実際に使われている木材の半分以上が輸入されています。そのほうが安く簡単につくれるからです。



工事現場での打ち合わせ風景。現地に足を運び、直接見て、話をして決める。SHIROが何においても大切にしていることです。

MAISON SHIROを建てるために森の木を伐採するのではなく、森を保全するために木こりの皆さんの手で丁寧に間伐された木を、最大限に使用することを、私たちは目指しました。それがSHIROが思い描く、森の都合に合わせた家づくりです。また、できる限り廃棄物を生み出さないために、余った木材で家具をつくるなど工夫をしています。解体した時に再利用したり、土に還せるように、天然素材にこだわり、接着剤も極力使用していません。一部に皆伐^{みぞ伐}によって伐られた木を使うことになり、今後への課題が残りました。こうした「SHIROらしさ」「SHIROが目指す未来」を体現する一軒家をつくるには、当然4人では足りません。今回のプロジェクトに共感して参加いただいた北海道の専門家の皆さんをご紹介します。

プロジェクトの最初から引き渡しの日まで、特に深く長く関わってくださったのが、施工を担当してくださった武部建設の武部豊樹さんと金子大介さん、そして、小倉さんのデザインと武部建設の施工との調整を担当した建築家の中野剛育さんです。



武部建設
武部豊樹 Toyoki Takebe | 金子大介 Daisuke Kaneko

1946年創業。北海道岩見沢市と三笠市に事務所を構える建設会社。道産材、国産材を使った木造住宅にこだわり、省エネルギーで暖かく開放感のある空間を得意とする。自社で所有する森や古民家再生などを通じて、大工の技術継承・育成にも力を入れている。



森の都合に合わせてつくる

当初1本の柱で設計していましたが、間伐した木が細かったため、2本の柱に変更。森の都合に合わせてとなりました。木の水分が抜けて割れが生じていますが、強度には問題はありません。普通の建築物では見えない部分が見えるのもMAISON SHIROならではの。



皆伐とは、林業における伐採方法のひとつ。対象となる森林の区画にある樹木を全て伐採する方法。環境の変化が激しく、生物全体へ大きな攪乱を与えてしまうため、SHIROは間伐を推奨しています。

森の都合に合わせた建築を実現するため、みんなで森に集まり、林業の課題や、持続可能な森づくりについて話し合いました。間伐にも立ち会い、使う木一つひとつを自分たちで確認していきます。その後、製材所にも足を運び、建材に加工される様子を見学しました。日本全国の生産者を訪ねてものづくりをしてきたSHIROにとってはごくごく自然なことですが、建築の世界では珍しいことだったようです。

早くから北海道の木材を使い、大工の技術向上にも努めている武部建設のお二人にとっても、新しい挑戦に戸惑ったことも多い一方、学びは大きかったと振り返ります。

間伐材は反ったり割れたりする可能性があり不安定なので、通常は柱や梁に使うことはありません。でもMAISON SHIROでは使用しているんです。もしかすると数年後、数十年後、どこかに支障が出てくるかもしれませんが。そのリスクを踏まえたうえで、それでも森の資源を無駄にせず未来を良くしようとチームがひとつになれたからこそ、私たちが新たな挑戦に取り組むことを決意できました。私たちの普段の仕事は、速く、安くつくることを追求し過ぎているのかもしれませんね。

——武部建設（武部豊樹 / 金子大介）

武部建設では、今回のプロジェクトで得た学びを自社の建築仕事に活かそうと、すでに準備を進めています。

普段はカタログから選ぶので、実際に木を倒す瞬間や製材する過程について学ぶのは初めてでした。分業は合理的だと思っていたのですが、必ずしもそうではありません。特に森の都合に合わせて廃棄物を減らそうとする時には、もっとみんなで状況を共有し、無関心だったことや諦めていたことに焦点を当てる必要がありました。

——高山景

こう語る高山さんが特に時間をかけたのは、限られた量の広葉樹の丸太を余すところなく使い切ること。太さがバラバラな丸太に対し、金子さんがリストアップしてくれた必要な木材をどの丸太から取るか、実に複雑なパズルです。



中野剛育 Takeiku Nakano

「ナカノ設計店」代表。ただモノを売るだけでなく、下町の商店のようにお客様の生活の質を高めるようなコミュニケーションを重視し、人や街が楽しくなるような居場所となる設計事務所を目指している北海道の建築家。

武部建設の金子さんが今回のプロジェクトに絶対に必要だと直感し、参加してもらった建築家の中野さん。丁寧な仕事と北海道で家を作る知識、現場の都合とデザインの良さのバランスを高次元で保てたのは中野さんがいたからこそ。

途中で木材が足りなくなったら購入すればよいと、全員が考えていました。しかし今井さんは、一貫して「森で仕入れた木材だけを使って建てる」と考えを買きました。そこで、プロジェクトチームが腹を割って話し合い、リスタート。森で仕入れた木材だけを使う場合の方法を整理しました。それは私の仕事の範疇ではなかったのかもしれませんが、そこを頑張ればプロジェクトが前進することが明らかだったので、引き受けることにしました。メンバーがそれぞれ自分の責任を超えてお互いの仕事を理解し合い、支え合うことで、MAISON SHIROが実現できたのだと思います。

——中野剛育

足りなくなったら木材を買う、少し余分に購入して、余ったら捨てる。そんな自分たち都合の合理性を優先した建築からの脱却は、誰もやったことがないこと。たくさんの困難がありましたが、一人ひとりが「やるべきことだ」とわかったからこそ、妥協せず、最後までやり切ることができました。

MAISON SHIRO

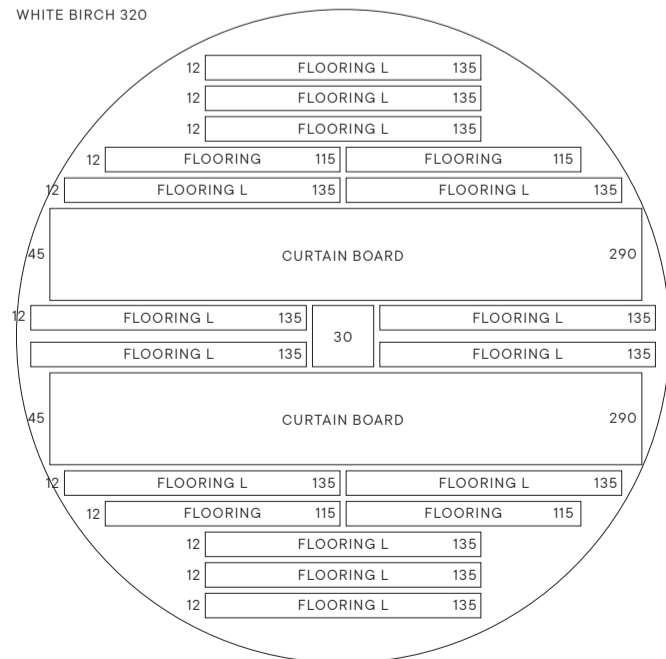
Simply Simple

できてからが本当のはじまり

MAISON SHIROに泊まる時にはぜひ、家の中をじっくり見て回ってください。床、扉、柱、家具、本、絵画……。一つひとつに、想いと意味を込めています。来て、食べて、寝て、起きて。あらゆる瞬間、あらゆる細部を存分に味わい、その意味を考えてもらえたらうれしいです。帰る時にはクラクラするほどの刺激を受けて、日常に持って帰ってください。

MAISON SHIROの物語はまだはじまったばかりです。建築中は雪で覆われていた庭には、野菜やハーブを植える予定ですし、インテリアや置いてある本も今井が世界中を見て回りながら、その時にピンとくるものへとアップデートしていくことになるでしょう。MAISON SHIROに泊まりに来てくれた人の中にも、SHIROと一緒に未来をつくっていく、まだ出会ったことのない人があるかもしれません。はじまりはデザインしました。ここからどんな出会いがあって、どんなふうに未来が変化していくのか。それが今から楽しみです。

WHITE BIRCH 320



高山さんが直径320mmの白樺の丸太を使い切るために描いた図。製材機の刃の厚さ2〜3mm分の隙間が空いたこのような図を、それぞれの丸太に対して描きました。

MAISON SHIROの森の都合に合わせた建物づくり



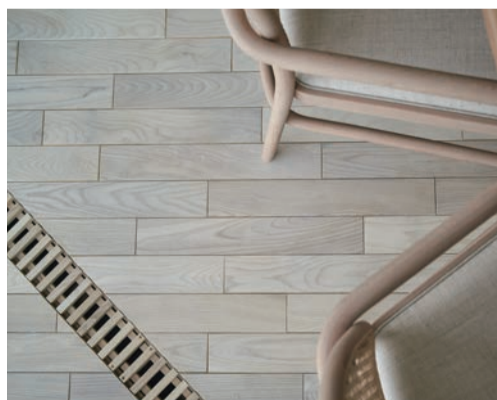
外壁にはトドマツの丸太から構造材を切り出したあとの材を活用

丸太は丸いのに、柱や梁に使われる木材は四角い。不思議に思ったことはありませんか？実は角材を切り出すために、多くの部分が切り落とされているのです。切り落とされた部分を活用して、外壁材をつくりました。



合板の使用は最小限にしできるだけ製材を活用

合板は非常に便利な建材なのですが、合板に使用されている接着剤や防腐剤が人体に影響を及ぼすと言われています。食べられる素材でSHIROの製品をつくる考え方を建物にも応用し、MAISON SHIROはできる限り化学物質を使用せずに建てました。



みんなの工場の建設時に出た余剰材を活用

建設現場では、不良品や作業ミスを見越して少し多めに建材が発注されています。みんなの工場を建設した時に余ったフローリングやウッドデッキの床材をMAISON SHIROでも使用。床の形成にも接着剤を使わず釘だけで留めています。



ドアハンドルに白樺の皮を巻いて新たなデザインを提案

ドアハンドルに白樺の樹皮を巻きました。北海道北竜町で、豊かな自然を残す里山を管理する上井達矢さんの森で採取したもの。丸太だけでなく、枝や葉なども含めて森林資源を活用し、持続可能な森林管理を後押ししたいと考えています。



石の端材を使った唯一無二の組み合わせ

繰り返し使用できる試着ツールとしてSHIROの店頭で採用している札幌軟石を、MAISON SHIROのサウナの壁にも使用しています。採石場で積み上げられていた端材を選別し、パズルのように組み合わせました。ランダムな表情をお楽しみください。



トドマツの端材をサイドテーブルや焔に

柱や梁などの構造材を切り出し、さらに外壁材を切り出して残った、木の「耳」と呼ばれる表皮に近い部分を束ねて、ベッドサイドのテーブルを製作しました。渋谷PARCO POP UP STOREのディスプレイ台は同じ考え方で製作しました。



ザツカバの端材でドアの取っ手を製作

建築で余った木材で家具を製作。それでもなお余ってしまったザツカバの端材が、北海道在住の木工作家、内田悠さんと辻有希さんの手によって、ドアハンドルに生まれ変わりました。
@yuchidauu @aki_tsuji



ロウリュ用の水を溜める容器は旧砂川本店のガラス容器を再利用

ロウリュに使う水を溜めるフラスコは、旧砂川本店で手洗い用の水を溜めていたものを再利用。静かにSHIROのストーリーを伝えてくれています。ある店舗で不要になったものを、他の店舗で活用するなど、SHIROは捨てないお店づくりに取り組んでいます。



MAISON SHIRO

Simply Simple

ADDRESS

北海道夕張郡長沼町加賀団地

ACCESS

新千歳空港から車で25分 / 札幌から車で1時間

屋外駐車場 / 乗用車4台

※送迎サービスはございません。

※レンタカーや自家用車でお越しください。

(冬は4WD、スタッドレスタイヤをご装着ください。)

RESERVATION

予約、詳細はウェブサイトをご確認ください。

<https://maisonshiro.jp>



ADDRESS / ACCESS

北海道砂川市豊沼町54-1

0125-52-9646

JR砂川駅より徒歩1分の「砂川パークホテル」と「みんなの工場」間で無料シャトルバスを運行しております。

OPEN

10:00-19:00 (不定休)

・工場: 10:00-17:30 (日・祝日はお休み)

・ショップ: 10:00-19:00 (プレnderラボ最終受付18:30)

・カフェ: 11:00-19:00 (ラストオーダー18:30)

SHOP LIST

北海道

SHIRO 砂川本店

SHIRO 札幌ステラプレイス店

北海道砂川市豊沼町54-1 みんなの工場内

北海道札幌市中央区北5条西2-5 JRタワー

札幌ステラプレイス センター B1

関東

SHIRO 表参道本店

SHIRO BEAUTY 表参道本店

SHIRO 自由が丘店

SHIRO NEWoMan 新宿店

SHIRO ルミネエスト新宿店

SHIRO 伊勢丹新宿店

SHIRO 丸ビル店

SHIRO 銀座三越店

SHIRO +Q(プラスク) ビューティー

渋谷スクランブルスクエア店

SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs店

SHIRO ルミネ池袋店

SHIRO 玉川高島屋S・C店

SHIRO ルミネ北千住店

SHIRO ルミネ横浜店

SHIRO ルミネ大宮店

SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY

東京都渋谷区神宮前5-2-7 2F

東京都渋谷区神宮前5-2-7 B1F

東京都目黒区自由が丘2-9-14 アンソルティ 1F・B1F

東京都新宿区新宿4-1-6 NEWoMan 新宿 1F

東京都新宿区新宿3-38-1 ルミネエスト新宿 B1

東京都新宿区新宿3-14-1 伊勢丹新宿店本館1階=化粧品

東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング B1F

東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越 地下1階 ギンザコスメワールド

東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア

ショップ&レストラン6階 SHIRO +Q(プラスク) ビューティー店

東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F

東京都豊島区西池袋1-11-1 ルミネ池袋 B1

東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋S・C 南館 1F

東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住 3F

神奈川県横浜市西区高島2-16-1 ルミネ横浜 1F

埼玉県さいたま市大宮区錦町630番地 ルミネ大宮店 ルミネ2 3F

東京都大田区羽田空港3-4-2 第2ターミナル3階 国際線出国エリア内

中部

SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店

SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店

愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 タカシマヤゲートタワーモール6F

愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ3F化粧品

近畿

SHIRO 大丸京都店

SHIRO ルクア イーレ店

SHIRO 阪急うめだ店

SHIRO 大丸心齋橋店

SHIRO 大阪タカシマヤ店

SHIRO 大丸神戸店

京都府京都市下京区四条通高倉西入立売西町79 大丸京都店 1F

大阪府大阪市北区梅田3-1-3 ルクア イーレ 2F

大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY

大阪府大阪市中央区心齋橋筋1-7-1 大丸心齋橋店本館 1F

大阪府大阪市中央区難波5-1-5 高島屋 大阪店 1階化粧品売場

兵庫県神戸市中央区明石町40番地 大丸神戸店 本館 1F化粧品

九州

SHIRO 岩田屋店

SHIRO 博多阪急店

福岡県福岡市中央区天神2-5-35 岩田屋本店 本館1階=化粧品

福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 博多阪急 1F化粧品

台北

SHIRO 新光三越台北信義新天地A11店

台湾台北市信義區松壽路11號1樓

2024年4月3日に発生しました、台湾東部の花蓮県沖を震源とする地震により被災された皆様、ご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地域の日も早い復旧・復興を心からお祈りいたします。

London

SHIRO Monmouth Street

Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, WC2H 9DG, UK

SHIRO PAPER

MAISON SHIRO EDITION

編集長：今井浩恵

Editor in Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター：佐々木信 (3KG)
Creative Director: Shin Sasaki

エディター：葛原信太郎
Editor: Shintaro Kuzuhara

表紙写真：澤圭太
Cover Photograph: Keita Sawa

フォトグラファー(P13)：曾根健吾 (monocycle)
Photograph: Kengo Sone

発行人：福永敬弘

Publisher: Takahiro Fukunaga

プロデューサー：伊藤亜由美
(CREATIVE OFFICE CUE)
Producer: Ayumi Ito

PR・校正：小林穂乃香
Public Relations: Honoka Kobayashi

PR・校正：河合裕子
Public Relations: Yuko Kawai

PR・撮影：笹木舞子
Public Relations: Maiko Sasaki

印刷：北海道新聞社

Print: The Hokkaido Shimbun Press

Thanks to: 〈企画・設計・建築にご協力いただいたみんな〉小倉寛之 / 高山泉 / 武部豊樹 / 金子大介 / 中野剛育 / 武隈洋輔 / 尾澤淳也 / 齋藤光久 / 山脇克彦 / 陣内雄 / 足立成亮 / 福山寛人 / 谷知大輔 / 山脇克彦 / 吉田凱 / 野中穂 / 内田悠 / 辻有希 / 上井達矢 / 北崎千鶴 / 水島直樹 / 稲荷山勇雄 / 岩木克仁 / 緑川新之介 / 山崎正夫 / 齋藤良彦 / 平井儀一 / 柏雅美 / 小野孝輔 / 高田和孝 / 名内隆 / 岡田明子 / 佐々木健一 / 谷口哲也 / 後藤猛 / 川波宇澄 / 高橋元 / 菊池旬 / 川島直弥 / 竹原陽子 / 二宮康晴 / 渡辺明美 / 加納俊一郎 / 辻昌之 / 平田夢菜 / 船田慎人 / 粟井英一郎 / 奥正光 / 唐牛宏 / マイクの皆さん / DRAWERSの皆さん /

武部建設の皆さん / 齊藤工業所の皆さん / 空知単板の皆さん / 緑川木材の皆さん / 三共建具の皆さん / 辻石材工業の皆さん / 飛騨産業の皆さん / テルマリウムの皆さん / 木こりの皆さん / 杉山和哉 / 中川美由紀(敬称略・順不同)

Copyright © SHIRO Co., Ltd.
All Rights Reserved.
本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp
@shiro_japan
@shiro_sunagawa
@maisonshiro_



発行：株式会社シロ
お問い合わせ
TEL: 0120-275-606
MAIL: info@shiro-shiro.jp